

滲出性（しんしゅつせい）中耳炎

滲出性中耳炎の原因は

1～6才の子どもがなりやすいです
中耳に滲出液が貯まって難聴の原因となります

耳管（耳と鼻をつないでいる管）の炎症による機能障害が原因で起こります
約50%の症例で急性中耳炎が先行します



急性中耳炎が
完治しなかった

副鼻腔炎（ちくのう症）
アデノイド肥大

慢性の鼻づまりで口呼吸して
いたり、いびきをかく子ども
は要注意です



り耳鼻咽喉科

飛行機に乗るなどの急激な気圧の変化でも起こることがあります

滲出性中耳炎の症状

痛くない中耳炎なので気付きにくいです

聞こえが悪い

よく
耳をさわる

耳がふさがった感じ
耳に水が入った感じ

急性中耳炎と違って痛みがないため、小さい
お子さんの場合は訴えがありません！！

テレビの音が大きい
返事をしない
聞き返すことが多い

は、重要なサインです！

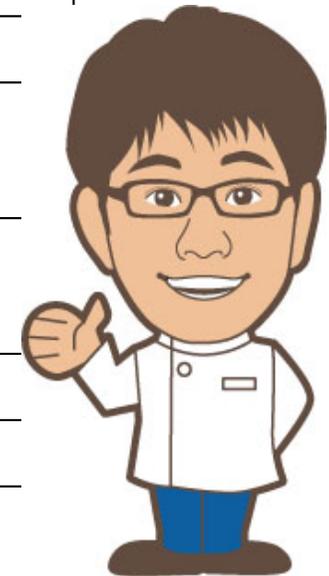


り耳鼻咽喉科

滲出性中耳炎の検査は

特に治りにくい子どもは、
検査をしっかりとった上で
治療方針を立てる必要があります

問診	聞こえの程度、言葉の発達、鼻すすり、いびきや鼻閉の有無
鼓膜の視診	鼓膜が陥凹し、浸出液が貯まっています
内視鏡検査	鼻の奥の耳管の入り口やアデノイドの状態を見ます
聴力検査	5才くらいから検査可能です 聞こえの評価は、治療方針決定に重要です
ティンパノグラム	鼓膜の動きを調べる検査です 診断と治療効果判定時にも行います
鼻汁培養検査	鼻の治りが悪いときや耐性菌が疑われるときに行います
レントゲン	乳突蜂巣の発育やアデノイド、副鼻腔炎の有無を見ます



滲出性中耳炎の経過について

治療の基本は、まず定期的に観察しつつ変化を見ていくことです

通常は2～3週間以内に治ります

鼻処置、ネブライザー、耳管通気療法が重要です

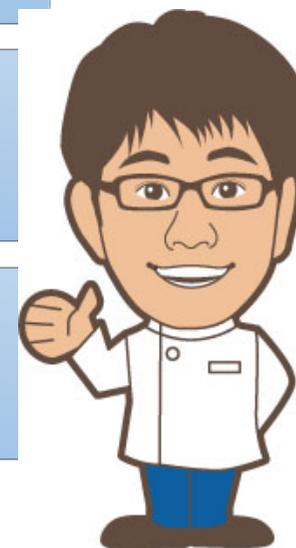
3ヵ月以上通院治療しても治らない場合は、
1～数年かかることがあります

再発することが
少なくないです

治りにくい場合は
鼓膜チュービングや
アデノイド切除など
の手術をすることがあります

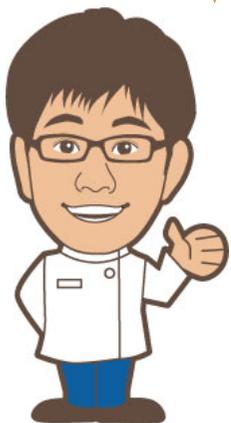
10才以上の滲出性中耳炎
は治りにくいので、鼓膜
チュービングを含めた積
極的な治療が必要です

20人に1人が難治例で
400人に1人が後遺症を
残すことがあります



滲出性中耳炎の治療は時間がかかることがあり、再発することが少なくないです

治療に時間がかかりますが、通院治療を中断しないようにして下さい



薬物治療

- ムコダイン
- 柴苓湯
- 慢性副鼻腔炎合併例ではマクロライド療法が効きます

処置

- 鼻処置
- ネブライザー
- 耳管通気
- 鼓膜切開

鼓膜チューブ挿入

- 薬や処置でよくなるしない重症の滲出性中耳炎でも80%くらいは治ります
- 1年以上チューブを入れたままにします
- しかし、再発してチューブをまた入れなければならない場合もあります



滲出性中耳炎で通院中の保護者の方へ

不十分な治療などのために、あとで入院手術が必要になる癒着性中耳炎や、真珠腫性中耳炎になってしまうこともありますので放置することは避けてください

幼小児期は、性格形成・言葉の学習に大切な時期なので軽度の難聴でも治療が必要です

症状に乏しく、治療に時間がかかりますが、**通院治療を中断しないよう**にしてください

乳突蜂巣（中耳）の発育期である**3～4才までの治療が大切です**

早期に適切な治療を受ければ、ほとんどの場合は完全に治ります

